1.　評 価 結 果 概 要 表

［認知症対応型共同生活介護用］

作成日　平成１９年１０月２５日

【評価実施概要】

事業所番号	０７７１０００１７１
法人名	株式会社エコ
事業所名	グループホーム　天神
所在地	〒964-0865　福島県二本松市杉田町１丁目２－１ （電　話）0243-22-8171

評価機関名	ＮＰＯ法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043　福島県福島市中町4-20　みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年9月28日	評価確定日	平成19年11月13日

【情報提供票より】（平成１９年７月１日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・平成　１６年　１１月　１日	
ユニット数	２ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16 人	常勤　16人，　非常勤　0人，　常勤換算　12.3人

（２）建物概要

建物構造	木造　造り
	２階建ての　１～２　階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	30,000　円		その他の経費（月額）	4～10月　9,000 11～3月　12,000　円
敷　金	有（　円）		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　19,950　円） 無		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,200　円			

（４）利用者の概要

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護１	5 名	要介護２	3 名		
要介護３	5 名	要介護４	5 名		
要介護５	0 名	要支援２	0 名		
年齢	平均　83.6 歳	最低	74 歳	最高	92 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	安斉内科胃腸科医院、安斉歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

中心市街地からやや離れた自然環境に恵まれた２ユニット２階建てのグループホームである。開設後、約３年経過したことから職員も定着してきており、広々とした生活空間の中で、利用者も職員と馴染みながら自由な生活を楽しんでいる。特に音楽が好きな利用者が多く、帰宅願望がある利用者は職員とカラオケを楽しんだりしているうちに、帰宅願望が失せてしまうなど、日常のケアにも役立てているようである。運営の理念には、寄り添う心、通い合う心、感謝の心を掲げており、法人の理念である尊厳を重視したケアに心がけている。今後は、地域密着型サービスとしてグループホームの役割を認識し、地域の人たちとの交流を図りながら、地域の中でその人らしい暮らしを続けられるように支援するための具体的な理念を加えることを、職員全員で検討しているところである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	前回の評価では特に、法人と事業所とのコミュニケーションが十分なされなかったため、運営面での課題が指摘されたが、現在は、運営推進会議にも法人の代表者等が参加し緊密な情報交換を図りながら管理運営に努めており、改善がなされている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	自己評価は職員全員で行ない、その結果を管理者が総括的に評価し職員に周知している。法人の責任者も内容を把握し補完的な事務処理を行なっている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5）
	運営推進会議は、昨年６月から２ヶ月に１回定期的に開催しており、会議内容も議事録に詳細に記録しており、グループホームの運営に反映させるよう努力している。今後は、画一的なテーマに加え、新たな地域密着型サービスとしてのグループホームの在り方について、意見や理解を得るとともに、外部評価の結果についての公表や意見交換等により、一層、開かれたグループホームに発展されるよう期待したい。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	ホームの行事内容を主に２ヶ月に１回、定期的に「天神だより」を発行し送付している。また、個別的にも利用者の診断記録等健康状態や生活状況等の近況報告を月１回行い、金銭出納についても、家族の確認を得た出納帳が保存されてある。意見や要望等聴取の方法としてユニットごとに意見箱が置かれてある。また、運営推進会議等を活用し、家族の要望や意見等が出されるよう発言の場を設定している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	自治会に加入し、「天神だより」を回覧しており、地域の清掃活動にも積極的に参加している。また、地域の自衛消防組織との連携を密にしており、避難訓練にも全面的な協力を得ている。ボランティアの受け入れも積極的である。

2.　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念を踏まえ、事業所独自の理念を職員で作り上げているが、改正法に基づく地域密着型としての独自の具体的理念を職員全員で検討しているところである。	○	町内会の理解や協力も得られておりボランティアの受け入れも十分なされていることから、外部の方たちからも地域密着型サービスの事業所としての独自の理念が理解されるよう、分かりやすい表現で作成してほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員とも理念を理解し、利用者に対しても理念を具体的に反映するために職員間で話合い、意識して実践に取り組んでいる。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者、職員とも、地域での清掃活動や老人会の催事等に積極的に参加している。また、町内会の行事にも参加している。		
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を十分に理解し、評価によって気づかされたことを前向きに捉え実践している。職員は「これでいいのか」を常に問う姿勢で取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年６月以来、２ヶ月に１回定期的に開催されており、会議録には、参加者の発言内容や委員からのアドバイスなど丁寧に記載されている。今後は外部評価の公開等もテーマに加えて意見交換等を行なって欲しい。		
6	9				
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の生活状態など近況を伝え、毎月、現金出納帳のコピー、領収書、通院記録などを送付している。また、ホームの行事予定や「天神だより」を定期発行して家族へ送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族も出席しており、気軽に発言してもらえるよう配慮している。意見箱が各ユニットに置いてあり自由に意見、要望を書き込んでもらい、運営に反映させるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新規に開設したグループホームの職員育成のための異動が見られたが、通常は、１階と２階で職員が相互に交替することはあるが、日頃よりホーム内のイベント等で利用者とは馴染みの関係を築いており、混乱することのないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の職員研修体制は充実している。研修報告も行なわれており、OJT（職場内研修）に活かされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内グループホームを利用者と一緒に訪問したり、また相互の交流を図り、ケアの向上に反映させるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応（小規模多機能居宅介護事業所のみ記入）**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している（小規模多機能居宅介護）			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜作りや手芸、洋服のリフォームなど職員が経験豊富な利用者から教えてもらったりすることは多く、日頃から感謝や尊敬の念を持ち接している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
１．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が何を望み、どのような要望を持っているのか等知るために本人の言葉や行動から推測したり、家族から情報を得ながら把握に努めている。また、入居間もない利用者の生活歴の把握については、特に暮らしの情報に記載されていない空白部分をできるだけ埋め、活用するよう努めている。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	職員が記載する個別の記録をもとに、定期的にケア検討会議やスタッフ会議を行い、家族等の意見を取り入れながら、目標に向けてのモニタリングを行ない、利用者にとって適切な計画となるよう努めている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月１回のケース検討会議の際に、利用者の意向や家族の意見を取り入れ変化に応じた対応と、３ヶ月ごとの見直しを行なっている。また、個別の記録の中で状態変化が見られる場合、介護計画の見直しがなされており、現状に即した計画となっている。内部で事故対策検討委員会を設置し事故防止に努めている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている（小規模多機能居宅介護）			

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	職員の同行により、かかりつけ医等の受診が行なわれている。今後は、勤務体制を考慮し、家族支援を得ながらの適切な医療受診を検討している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	法人としての対応方針を作成し、事業所として可能なケアについて入居時に説明をしている。また、利用者及び家族に対し、看取り等についての事前確認書を取り交わすこととしている。職員間でも主治医との連携により終末期の方針についての理解を深めている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** （1）一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者本位のケアに努めており、プライドを尊重し言葉かけにも十分配慮している。「個人情報使用に関わる同意書」により、利用者等の同意を得ており、職員も誓約書を提出し個人情報漏洩防止に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者はそれぞれのペースでゆったりと自由に過ごしており、できるだけ希望に沿って支援している。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	近くのスーパーで利用者と共に食材を購入し、食事の準備や後片付けも利用者がそれぞれのペースで行なっている。職員も一緒に食卓を囲み、会話をしながら楽しんで食事をしている様子がうかがわれる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望により入浴できるようにし、プライバシーに配慮し、さりげなく見守り支援している。入浴拒否の利用者にもタイミングや状態を観察しながら支援に努め、現在はスムーズに入浴が楽しめるようになったようである。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援（認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入）					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている（認知症対応型共同生活介護）	利用者の生活歴を活かしながら、お裁縫が得意な利用者には役割を見つけ職員がお願いしたり、利用者が畑で生産した野菜等を、全員で感謝しながら味わっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している（認知症対応型共同生活介護）	利用者の希望を取り入れ買い物、散歩やドライブにも出かけている。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠していない。センサーにより状況が確認できるようになっているが、センサーに頼らず見守りながら一緒に歩くなどして支援するよう努めている。また、特定の徘徊者については、専門医の受診により投薬を中止し、改善が図られたようである。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域の自衛消防団の協力を得ながら、消防訓練計画により、年２回定期的に避難訓練を行なっている。ただ、備蓄は行なわれていない。	○	災害等に備えた準備が必要である。例えば、食料や飲料水、暖をとるための石油ストーブ等を法人として検討されたい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病等の利用者に対しては、個別チェック表により食事の管理を行なっており、その他の利用者については、生活チェック表により食事や水分の摂取量を把握し、管理栄養士が作成したメニューを取り入れ栄養バランスには特に留意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るいリビングルームからは、安達太良連峰が眺められ、建物の周囲は稲田が広がり利用者は眺望を誇らしげに話していた。車の走行は多いが、室内では騒音は聞こえず利用者はDVDで懐メロを楽しんだり、童謡を口ずさんだりし、快適に過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの好みに沿ったレイアウトがされ、仏壇や家族の写真、手芸品などが置かれ、落ち着いた暮らし方が工夫されている。		

※ ▒ は、重点項目。

３ 評価結果に対する事業所の意見

事 業 所 名	グループホーム 天神
記入担当者名	藤戸 末子

評価結果に対する事業所の意見
特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目№を記入してから内容を記入してください。